



「暦」

校長 三浦 伸之

12月になり、イルミネーションで彩られた街にはXmasソングが流れ、スーパーに行けば、Xmas ケーキやおせちのポスターが貼られ、その横にはしめ飾りと鏡餅が並んでいる。そんな時期になりました。カレンダーも残り1枚となって、何となく寂しそうにしているように感じて、1年の過ぎゆく速さに驚いている日々です。そんな時、ふと思いました。「どうしてカレンダーの土曜日は青で日曜日や祝日は赤なんだろう？」と。調べてみると、この3色で構成されているカレンダーは日本独自のものらしいです。まず「赤」。そもそも日本で「曜日」という概念が導入されたのは、明治6年(1873年)。政府が太陽暦を導入し、1週間を7日で区切ったことで曜日制度が一般化されたそうです。ですが当時の一般庶民にはまだまだ曜日感覚に馴染みがなく、「日曜に休む」という文化が根付いていなかったそうです。時は流れ明治33年(1900年)頃からは、商店や学校、役所向けに印刷カレンダーが普及。人々の暮らしの中で「今日は何曜日?」「いつが休み?」がすぐ分かるよう。また、視認性も高く、「注意」「特別」という心理的効果もあるため「赤」が採用されたようです。では、土曜日はなぜ「青」なのでしょう?これは、1960年代、地方自治体の中で、土曜日を隔週の休日と半ドン(午後から半日の休日)の組み合わせにするとところが現れたため、土曜を「青」にするものが登場。1973年のオイルショック以降は、自粛ムードの影響で土曜日を休日にする企業が増加し、カレンダー業界では1974年から土曜日が「青」表示になったそうです。また、印刷の4原色は赤・黒・青・黄で、黒と赤はすでに使われていたので、残りは「青」と「黄」。

「黄」は視認性が良くないので、「青」になったとも考えられています。ちなみに世界的には色々な組み合わせがあるようですが、半分くらいは平日が「黒」で日曜日が「赤」。その他半分は様々らしいですよ。ちなみにちなみに、海外のカレンダー(特に欧米)は月曜始まりが多く、日本のものは殆どが日曜始まりだそうです。ここで、カレンダーにちなんで、音楽の話を。みなさんは「1週間」(原曲ロシア民謡)という歌をご存知ですか?私が子供の頃は小学校でも教わったりしていました。♪日曜日は市場へ出かけ糸と麻を買ってきた。月曜日にお風呂を焚いて、火曜日はお風呂に入り。水曜日は友達が来て、木曜日は送っていった。金曜日は糸巻きもせず、土曜日はおしゃべりばかり。友達よこれが私の1週間の仕事です♪仕事なんてしていないのに、最後に「これが私の1週間の仕事です。」と締めくくる。「月曜日に風呂を焚くのに、なんで次の日まで入らない?」奇妙な歌詞ですよ。でも、未だに時折口ずさんでいます。シュールな魅力を持った曲なので、興味を持たれた方は一度聴いてみてください。歌詞の曜日の間に入るテュリヤテュリヤテュリヤテュリヤテュリヤテュリヤリヤ。という謎の言葉も耳に残って楽しいですよ。

みなさんにとって2025年はどんな年でしたか?私はとにかく多忙な1年でした。来年は少しだけ「のんびりしたいな。」などと考えています。2026年がみなさんにとって良い年になることを祈っております。良いお年をお迎えください。